



南の躍動

令和4年度 第1号

奄美のよさを生かした魅力・活力ある教育の推進

大島教育事務所 令和4年6月24日



奄美のよさを生かした魅力・活力ある教育の推進

大島教育事務所長 溜 清弘

4月に着任してから、数か月ではありますが、訪問や行事等を通して、大島の人の心の温かさ、自然・文化の素晴らしさなどに魅了されました。大島地区には、世界自然遺産にも登録されたような素晴らしい自然、島唄や島口をはじめとする奄美の文化、また、人々が地域のつながりを大切にしていける「結いの心」の精神等、地区内外に誇れるたくさんの「奄美のよさ」があります。本年度の大島地区教育推進プランの目標に、新しく「魅力」という言葉を入れました。「奄美のよさ」つまり、それぞれの学校・地域が特色としている「魅力」を生かし、先生方をはじめ本地区の教育に携わる多くの方々が、これまでに築かれた教育の礎を大切にしていきたいと考えています。そして、一つ一つの教育活動を充実させるとともに、その精度を高めることで、今まで以上に「奄美だからこそできる魅力・活力ある教育」を推進していただくことを期待しています。

教育事務所も7人の職員が新たに転入してまいりました。12市町村の教育委員会、129校の小中学校との協力・連携を大切にしながら、大島地区の教育の更なる充実に向けて共に努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



生徒指導とは？ ～生徒指導の充実をめざして～

「生徒指導とは？」この問いに対して、どのような考えをもたれますか。

平成22年3月に文部科学省から出された「生徒指導提要」には、生徒指導の意義として、「一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的な資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のこと。すなわち、生徒指導は、すべての児童生徒のそれぞれの人格のよりよき発達を目指すとともに、学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で興味深く、充実したものになることを目指している」と示されています。

奄美には、「子(くわー)どう、宝(たから)」「命(いのうち)どう、宝(たから)」という言葉があります。まさにこの言葉を実践し、児童生徒の命を守り・育てることが、教育活動の根幹ではないでしょうか。また、奄美には、「木(きい)や木(きいん)中(なー)、人(ちゅー)や人(ちゅん)中(なー)」ということわざもあります。「いい木は木の中で育ち、人は人の中でこそたくましく育つ」という意味です。互いに切磋琢磨しながら、よりよい人間形成をめざすのが学校です。

大島地区のいじめ認知件数は、年々増加しています。これは、各学校が日常の観察やアンケート等をおして、生徒理解を積極的に進めている証拠です。また、不登校児童生徒数も減少傾向です。しかし、不登校児童生徒への支援の在り方等が課題となっています。

①児童生徒に「自己存在感」を与える、②教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒相互の「共感的な人間関係」を育てる、③「自己決定」の場を多く用意し、児童生徒が自己実現の喜びを味わうことができるようにすることが大切です。今後も「生徒理解」及び「保護者理解」を心がけ、全職員で共通理解し、生徒指導の充実を図っていきましょう。

学力定着に向けた大島地区の取組

大島教育事務所では、大島地区教育推進プランをにかけています。その中で、大島地区の学力向上に向けた取組について御紹介します。

まず、全ての小中学校で達成を目指す目標を、「到達可能な個別目標(AIGs)」とし、「確かな学力」の定着では、次のように目標を設定しました。(指標とする調査は、令和4年度鹿児島学習定着度調査)

【小学校】 各教科 通過率75%以上 (県平均以上)

【中学校】 各教科 通過率70%以上 (県平均以上)

この調査は、学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な知識及び技能の定着状況を把握するものです。この目標を達成するために、大島地区では、質の高い授業をどの学級でも実施することを目指して、「大島地区学力向上プロジェクト」を設定し、職員の研修や研究協力指定校の取組の支援を行っています。それぞれの取組の概要を以下のように御紹介します。

【コアティーチャーネットワークプロジェクト】

「国語」「算数・数学」「理科」「外国語活動・外国語」の4教科において、数名の教師によるプロジェクトチームを作って研究したり、研究の結果を広げたりする取組。

【コアスクールプロジェクト】

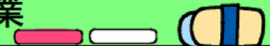
授業改善に先進的に取り組む「コアスクール」1校とコアスクールと、連携を図って授業改善を進めていく「エリア推進スクール」6校を設定して研究推進をする取組。

【「大島モデル」の授業づくりの推進】

「大島モデル」…授業充実の3ポイントを踏まえた「質の高い授業」



- ゴール(児童・生徒に身に付けさせるべき力)が明確な授業
- 「書く活動」及び「確かめ・見届け」を重視した授業
- 分かるようになった・できるようになった実感のある授業



令和2年度改訂『大島の教育Pamphlet1～6』の活用

大島教育事務所ホームページ

大島教育事務所

検索

「大島の教育Pamphlet1～6」は、大島教育事務所ホームページに掲載されています。御活用ください。

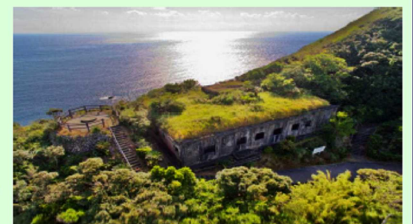


奄美の文化財等 ～大島海峡の軍事遺跡群～

奄美大島と加計呂麻島に挟まれた大島海峡は、リアス式海岸の湾を多く有し、古くから南西諸島の中でも天然の良港として認識されていました。こうした港を防備するため、明治期からアジア太平洋戦争終結までに、旧陸軍及び旧海軍により様々な軍事施設が構築されました。これらの施設を調べることで、瀬戸内町の歴史だけでなく、日本を取り巻く世界情勢を読み解くことができます。

また、終戦から75年以上が経過し、戦争体験者が少なくなっていく中で、軍事施設は、次世代に戦争の記憶・記録を継承していく重要な歴史資料です。右の写真は、加計呂麻島安脚場集落にある旧海軍防備衛所(潜水艦探査施設)です。

【瀬戸内町教育委員会社会教育課提供資料】



【瀬戸内町】
大島海峡の軍事遺跡群